

# コロナウイルスでの気づき

相模原中等教育学校 2年 小玉 碧空

コロナウイルス感染防止の為学校が休みになった時、友達と毎日ウォーキングをした。ある日、近くの老人施設の前を通った時、施設のベランダで、おばあちゃんが電話をしながら泣いているのを見た。見ると、建物の下に家族らしき男性がいて、おばあちゃんとお話をしている様子だった。

新聞やニュースなどを見て、施設内に感染が広がらないようにするために面会を制限したり、マスクやアルコール消毒の徹底をしたりしている事は知っていた。しかし、この直接面会が出来ずかわいそうだと感じた。

このことから、コロナウイルスの感染が蔓延しないために医療現場などは具体的にどのような対策をとっているのか、その上で全員に十分な対応がされているかを調べることにした。

そこで医療関係で働いている祖母と障害者福祉関連で働いている祖父に現状を聞いた。

祖母は、病院で看護師をしている。先ほどの老人施設と同じように、院内感染をしないように面会を禁止にしたり、職員の感染防止対策の徹底をしたりしていると言っていた。

しかし、中には面会が出来ない事で淋しかったり、認知症が進んでしまったりするのではないかと心配する家族もいる。

祖母は「面会や院内にたくさん人が入る事で感染が広がってしまう。制

限をせざるを得ない。」と言っていた。だから、病院では患者さんや家族には申し訳ないと思っているが、ご家族にも丁寧に説明し面会制限などに協力してもらっているそうだった。また、患者さんには淋しくならぬようにいつもより多く声かけや会話などをしているそうだった。そして、一日も早く回復するようお世話していると言っていた。

また、コロナ患者さんの受け入れ態勢を話し合い、コロナ疑いがある方が来た時のマニュアルを整備して、職員全体に周知しているそうだった。外来で来た患者さんにはお薬を通常より期間を長く処方したり、緊急性のない外来や手術は経過を見て先延ばしにしたりするそうだった。

祖母の病院では、まだコロナ患者が多く出ているわけではないので入院病棟を一カ所に決めて、一般の患者さんを断らないで済むように整えているようだった。実際、予定されていた手術は今まで通り行っているし、緊急の患者さんも断らずに診ているので、普段通りの手当てが出来ているそうだった。ただ、患者さんの中には、病院に行くこと自体が怖くて、受診を控えている人もいる。そのため、定期受診の間隔を空けても大丈夫だと医師が判断した人には、予約を延ばしてあげることにもしていると言っていた。

祖父は障害者の作業所に勤めている。作業所は、障害者の方々には生活に必要なことを支援しながら訓練をしていく場所だ。コロナウイルスが蔓延し、作業所を休所するかどうか話し合ったそうだった。作業所を閉めてしまつたら、一人暮らしの利用者は行く事も難しくなるし、引きこもり生活で生活リズムが乱れ生活能力の低下が起るため、感染防止対策を徹底して作業所を続ける事にしたそうだった。いつもより生活訓練時間を短くしたり、手洗いは消毒を徹底したり、食事や生活訓練をする時は密にならないようにソーシャルディスタンスを保つて行つたりすると言っていた。また、コロナウイルスにかかりたくないと言って作業所に来られなくなっている方もいる。そういう時には電話などを通じてお話しする

ことも行い、工夫しているようだ。現在も、利用者は毎日元気に来ているようだ。

コロナウイルスの感染防止対策を行っているのになぜ感染者は減らないのだろうか。中には減らないのならば対策をしなくてもいいのではないかと思う人もいると思う。たしかに今ほとんど感染者が増えている。しかし、この結果から分かるのが対策をとるのではだめという事だ。「対策」というのは日本全体・世界全体が行うことできつと、感染者は減るはずだと考える。

病院でも、作業所でも、患者さんや利用者の方々に少しでも淋しい思いをさせないように工夫して感染予防対策を考えている事が分かった。私は、最初家族に直接会えないのはかわいそうだと思うていたが、ペラペラ越しに家族と会って電話を通してお話ができるようにしているのは施設側が配慮をしてくれているのだと思う。一日でも早く普通の生活が出来るようにする為には、一人一人が感染させないような行動をすることが大事だと思う。私も、手洗い、消毒、マスクの着用など出来ることは積極的にやっていききたいと思う。

コロナウイルスで、自由に行動したり人と会ったりする事が出来なくなってしまう。今までと違った生活様式に戸惑う事もある。しかし、今の時代はインターネットの発達により、テレビ電話をしたり、学校や仕事もリモートで行えたりする。昔のようなインターネットが全く無い頃にコロナウイルスが起こってしまったら孤独で情報も少なく、不安な気持ちの方が今より増していたと思う。だから、コロナウイルスで不安な気持ちや辛い気持ちでいっぱいになってしまうと思うけれど、インターネットなどで人と繋がり合い、これからも前向きに乗り切っていきたい。